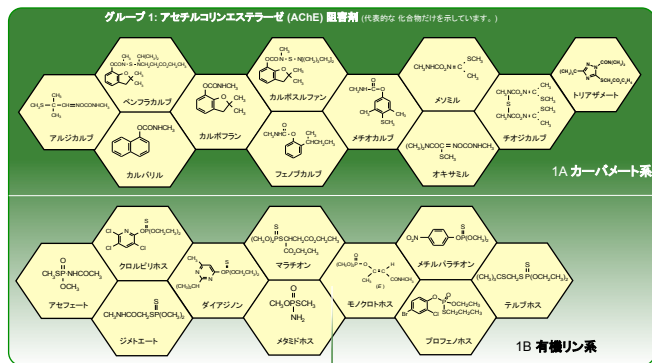


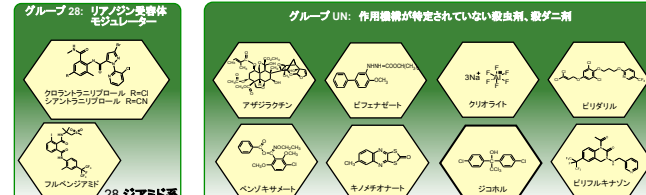
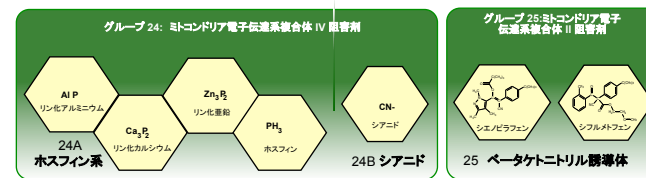
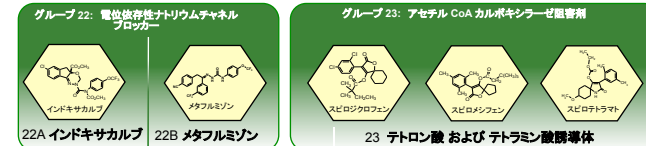
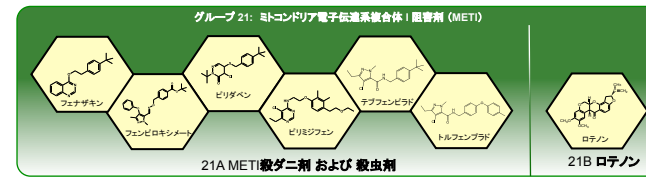
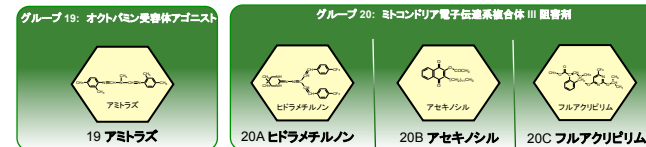
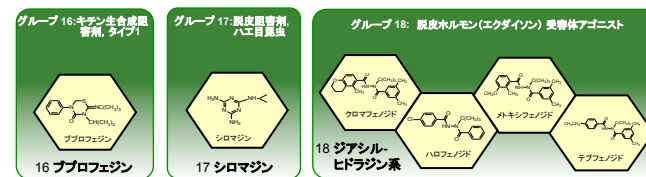
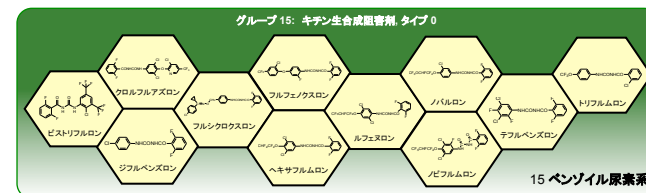
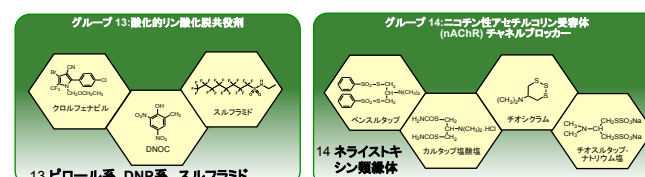
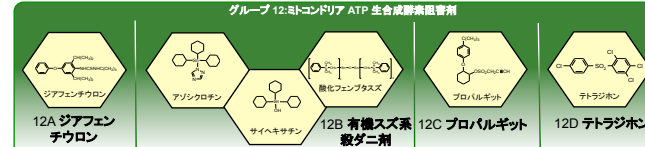
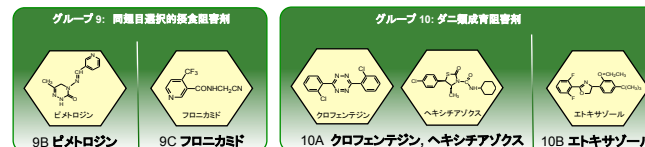
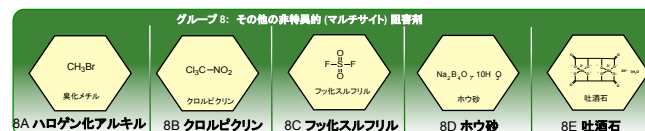
Mode of Action Classification

IRAC

Insecticide Resistance Action Committee

The Key to Resistance Management

IRAC と作用機分類についての詳しい情報は下記を参照またはお問い合わせ下さい。
www.irac-online.org or enquiries@irac-online.org



・害虫の連鎖する世代に同じグループから選ばれた化合物を混用するべきではない。
 ・代替手段が無く、防除対象の害虫に交差抵抗性が無いことが明らかであればサブグループ間の化合物を交互に使用してもよい。
 ・この分類は、全てが公表された科学的知見に基づいたものとは限らない。詳しくはIRACの「Mode of Action Classification document」を参照のこと。

サブグループについて
 ・サブグループは同じ作用機と考えられるが、化学構造の違いに基づき分類される。
 ・サブグループは同じ作用点に結合 (作用) すると考えられる複数の化合物の違いを区別している。

・サブグループ間では化学構造が異なるので、代謝に起因する交差抵抗性のリスクが少ないと考えられる。
 ・各サブグループは、それぞれ異なる酵素で代謝分解されるか、作用点において異なる様式の結合をすると考えられ、代謝や作用点変異による抵抗性の発達の可能性を低減させる。

・1A と 1B - 代替手段が無く、防除対象の害虫個体群に交差抵抗性が認められていない場合は、両者を交互に使用してもよい。
 ・3A と 3B - 代替手段が無く、防除対象の害虫個体群に交差抵抗性が認められていない場合は、両者を交互に使用してもよい。DDT は農業用には使用されないが、代替手段の無い蚊などのベクター防除にのみ使用することができる。

・4A, 4Bおよび4C-これらの化合物は同じ作用点に作用すると考えられるが、化学的に互いに異なり、代謝による交差抵抗性のリスクが低いことが立証されている。代替手段が無く、防除対象の害虫個体群に交差抵抗性が認められていない場合は、グループ4Aの化合物と4Cの化合物は交互に使用してもよい。
 ・10A - クロフェンテジンとヘキシチアソクスの作用機はどちらも知られていないが、化学構造は異なる。しかし、交差抵抗性が広く認められているので同グループとした。
 ・22A と 22B - これらの化合物は同一の作用点に作用すると考えられるが、化学構造が異なり、代謝に起因する交差抵抗性のリスクが低いことが証明されているのでサブグループにより区別した。